

より良いまちに
私たちとつながること 伊達

* ~ 2 ~ *

■労働力を補う

温暖で農業が盛んな伊達市。このまちで今春から農業者に寄り添った活動を展開する人がいる。金田光弘さん(66)だ。農業の普及指導員としての長年のキャリアを生かし、多忙な農家のため事務作業や労働力不足を補う。思いは一つ。ともに夢を追い、その夢の実現へ力を尽くす。「農家の方々に育ててもらったその恩返しです」

茨城県の旧金砂郷村出身。タバコやソバを栽培する農家の次男として育つた。「良い物が取れば家は明るくなり、台風やひょうが降る作物が傷むと暗く身染みている。県内の農

農家と共通認識を持ちながら夢実現へサポートする金田さん



恩返し胸に農家支える

農家の手伝い事業「ね」の手 ちよこつと 金田光弘さん

「おはようございます」
市内のほ場に、人一倍大きな声が響く。真っ黒に日焼けした顔に白い歯が輝く。バッグから、数種類の物差しと、デジタルカメラ

業高校から当時の恩師の薦め、江別市の酪農学園大学に進学した。

在学中、農業者の技術や経営向上の支援を専門とする普及指導員の国家資格試験に合格。2年間、東京での会社員生活を経て、道に

伊達市で5年間、伊達信用金庫で1年間勤務。いずれも農業に携わった。

■飛び回る日々

今春個人事業として、立

ち上げたのが農家の手伝い「ね」の手 ちよこつと。指導員として農家とともに汗をかき、課題にぶつかって悩み、解決し喜んでくれた。「大きく成長させてもらった。その恩返しをしたいが根底にある。スローガンは「ともに農家と今を科学し、その夢の実現まで寄り

添う」。感覚や経験に頼りがちな農作業。データ化し、数字で生育や品質を見える化する。しかし、繁忙期の農業者にデータを取る時間はない。「だから私はトラクターは乗れない。でも鉛筆を持ち、パソコンは見ることができると言っています。スポーツ選手のトレーナーです」
現在、15軒ほどのパートナーを務める。調査データは報告書として提出。市内で野菜を育てるやまけんやの山本健市代表(48)は「金田さんが細かく言っているから、尻たかたかっているようでありがたいね」。そんな役割もある。
曜日や時間も関係なく飛び回る日々。それでも農家と共通認識で仕事ができ、課題の共有、解決ができることはうれしい。「農家に最も適した生産技術の組み立てを提案していきたい」。将来の伊達の農業を陰で支えていく。
(奥村憲史)